



試されることで忍耐が生じる

校長 夏見隆晴

8期生の高校3年生が本校を卒業し、それぞれが将来の望みをかなえるために大学入学試験に挑みました。そして入れ替わりに、6年後には14期生として本校を巣立っていくはずの小学生が、入学試験を受けて合格し中学生活の準備を始めました。その他の学年でも進級のための学年末試験が当然行われます。考えてみれば、私たち社会人も多くの節目を何らかの試験で通過しているように思います。試験と切れないのが人生なのでしょう。

試験というのは、だれかによって試されるということです。わたしたちの一生は、ずっと試されることによって成り立っているのかもしれませんが、そして、実は試されるのがわたしたちの人間としての能力を高めていくうえで、非常に大きな力になっていることにもっと気付いてもよいのです。イエス・キリストに召された弟子のヤコブは、その手紙の中で「試されることで忍耐が生じる」と教えております。そして続けて「あくまでも忍耐しなさい。そうすれば、完全で申し分なく、何一つ欠けたところのない人になります。」(使徒ヤコブの手紙1章)とまで書き送り、愛する人たちが向上心を持って生きようと、導いているのです。このように忍耐というのは、キリスト教でも大切に考えられている徳でもあるのです。その根拠は神である「主は忍耐強く慈しみに満ち」でおられるからです。もちろん神は、わたしたちの一人ひとりが日常生活のなかで、多くの試練にあっていることをご存じであります。そんなときは、この上ない喜びと思いなさいと諭してさえるのです。忍耐がわたしたちを強めてくれるからです。

ところで現代に生きるわたしたちは、「忍耐」を徳であるとする考え方にはなじみが薄いかもしれません。もしかしたら、できれば忍耐などする必要のない恵まれた人生を送りたい、と考える若者の数の方が多いかもしれません。もっといえば、他人と比べて「自分は貧しく損をしている」と思っている若者の方が多いかもしれません。でもそのように考えている若者は、われわれ年配者から見れば本当はそんなに貧しくはないのです。本当に貧しくされている人達というのは、この日本にもたくさんあります。まして世界規模でみるとその数は大変なものになるでしょう。本当の意味で国際社会について考えるのなら、貧しくされた地域やそこに住む人びとのことについても、目をそらしてはいけません。世の中の真実に、わたしたちはもっと目覚めなければならないのです。

恵まれた日々を送っているわたしたちは、本当は試練であるはずの事柄を試練とは考えず、努力を怠っているのかもしれませんが、聖書にあるように、試練に出会うときは、この上ない喜びと思い、忍耐しながら完全を目指し生きていくなら、きっとわたしたちの主は多くの恵みをわたしたちのうえに照らし、守り導いてくださるのでしょう。

佐野聡史

「Kは昨日自分の方から話しかけた日蓮の事について、私と取り合わなかったのを、快く思っていなかったのです。精神的に向上心がないものは馬鹿だといって、何だか私をさも軽薄もののようにやり込めるのです。」

高校現代文で取り上げられることの多い「こころ」の一節です。もしかすると授業中この箇所を別段取り上げることもなく進められていくのかもしれませんが、でも、高校時代から決して優秀ではなかった自分にとってこのフレーズは年齢を重ねるとともに重くのしかかってきました。

中学高校時代の自分はバレーボール一色でした。親よりも担任よりも部活顧問と部活の先輩を絶対視しており、部活動を中心とした生活をし、それ以外の全てを排除していました。

ある日担任と面談し、希望職を聞かれた際に「ん？お前は教員にはなれないよ。だって大学へ行けないだろ。この成績では…。お前バレーしか考えてないだろ？担任なんか見てないだろ？今しか興味ないだろ？で、楽しむだけ楽しんでバレーでどうすんの？大学行けるの？向上心もないくせに」と言われたのです。

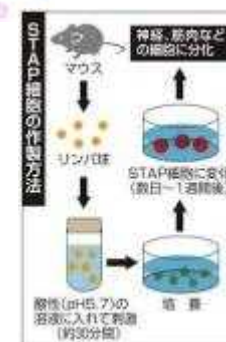
腹が立ちました。「なんでお前に将来を決められなきゃいけない？今を頑張ってる何が悪い？今が楽しくて何が悪い！！」そう思いながら返事もせずに面談を途中退室したのを覚えています。

2年浪人して、2年浪人する必要もない大学に入り、教授の世話もあって就職することができました。その頃から「こころ」を教材とすることが重なり、考えるようになりました。だから学習指導や進路指導、生徒指導をするときに常に不安になるのです。「自分はあれから精神的に向上しているのだろうか？」「向上しない人間が人にものを教えて良いのだろうか？」「先生と呼ばれてよいのだろうか？」…とあの時の担任の言葉が蘇ります。

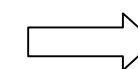
私は何事も中途半端で大成することができなかつた弱い人間です。辛いことを避けて好きな事だけやりたいと考えた気弱な人間です。でも、今はその弱い部分があるからこそ、悪い部分があるからこそ直すことによって向上できるのだと考えています。もし完全体があるならば、その完全体はそれ以上にはなりません。自分にはまだ伸びる余地がある。向上できる。やり直せる。吸収できる。それを続ければきっと成長し続けることができる。

我々はきっと、もっともっと成長することができます。興味を持って向上しようという心さえあれば。

卒業生の皆さんを含めた学生の皆さん。「大学に受かること=勉強！勉強！」と考えるのではなく、興味関心を持つこと、向上しようとする、それがきっかけで全てが学習に繋がってその結果、「活躍する場=大学 仕事」なのだと思います。



=





3月の予定

日・曜日	行事計画
1日(土)	第8回卒業式 卒業生を送る会(午後)
3日(月)	答案返却日 委員会活動
4日(火)	駿台模試 5, 4年生
5日(水)	完全下校16:30
8日(土)	総合
12日(水)	完全下校16:30
15日(土)	合唱コンクール 書写検定
19日(水)	大清掃 生徒会レク ホームステイ ~29日(土)
20日(木)	修了式 オリエンテーション
24日(月)	春期勉強合宿 ~28日(金)

高校後期入試(中旬予定)

あくまでも忍耐なさい。そうすれば、完全に申し分なく、何一つ欠けたところのない人になります。」(使徒ヤコブの手紙1章)



生徒の活躍!

二俣 竣 亮 くん

第34回九州カップ水泳競技大会

2月8日(土) 9日(日)に福岡市総合西市民プールにて開催された大会で100M自由形に出場し、第2位の成績を収めました。

おめでとうございます。